

共に支え合う 地域の仕組みづくり



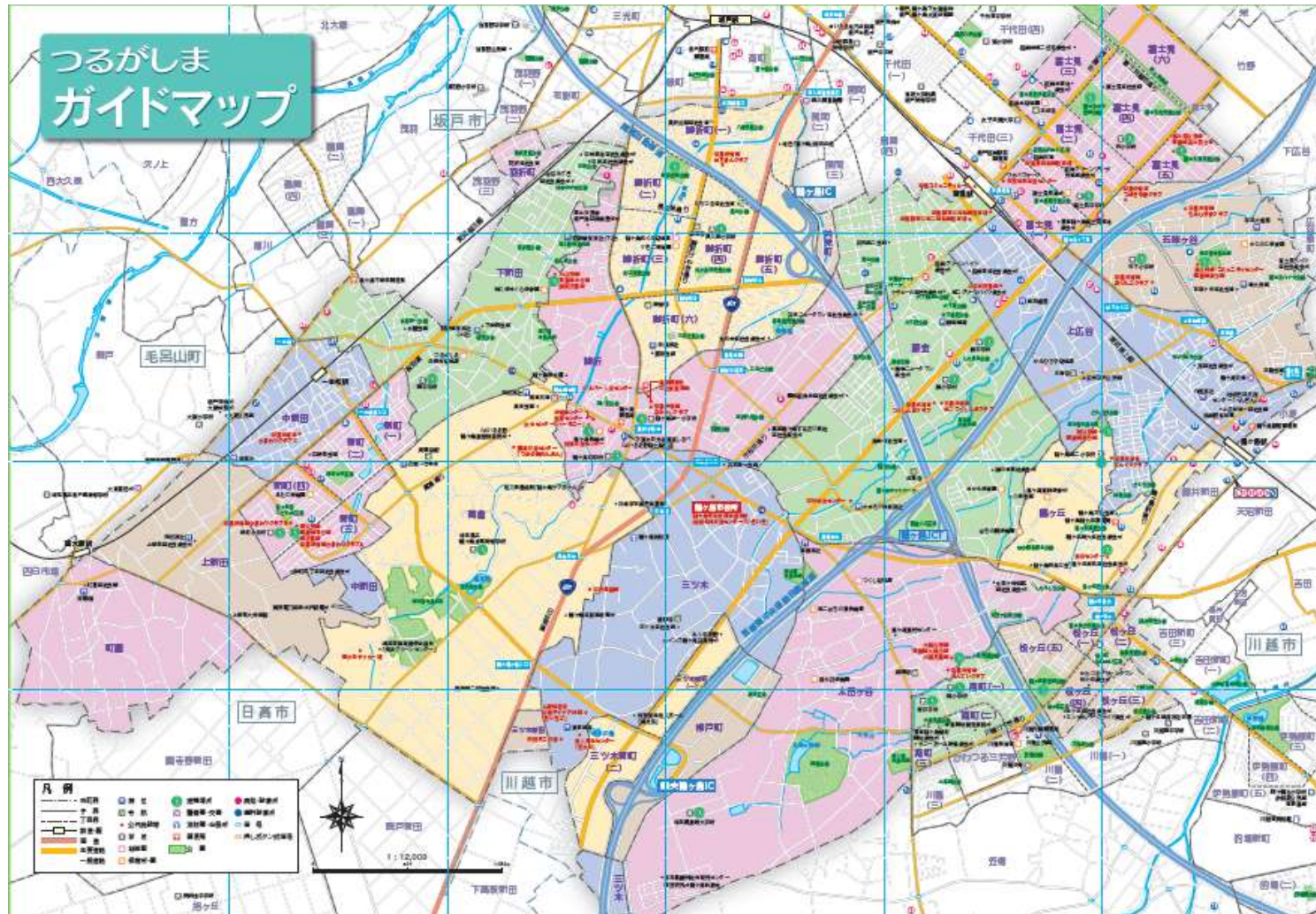
助け合い隊 外出支援の様子



鶴二小区 放課後宿題サロン

鶴ヶ島市 市民生活部 地域活動推進課

【鶴ヶ島市の地域】



ガイドマップつるがしま (平成23年3月作成版) より

【鶴ヶ島市のコミュニティ】

	昭和54年（1979年）		平成26年（2014年）
人口	29,534人	⇒	70,142人
世帯数	8,459世帯	⇒	29,259世帯
自治会数	53自治会	⇒	84自治会

昭和40年代～50年代にかけて、毎年10%前後の人口増加

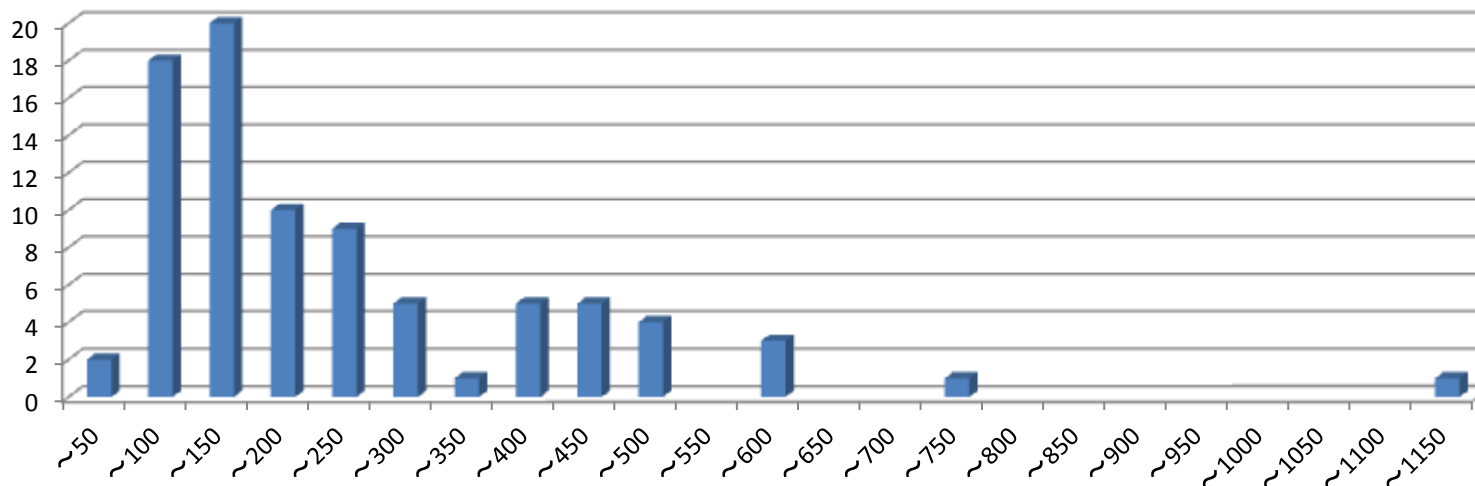
昭和54年4月1日より行政区制度から自治会制への移行

= 新住民の急増による地域社会の変貌への対応が急務であった

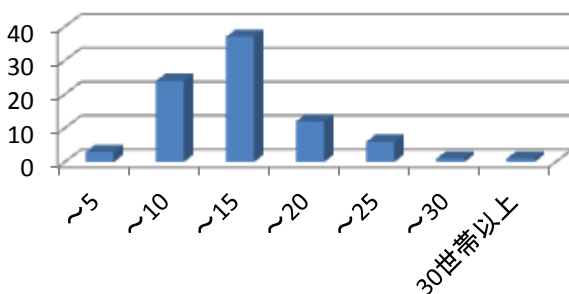
明治の大合併以降、合併することなく村から町、町から市へ

【自治会の状況】

自治会の規模(加入世帯数)



1班あたりの世帯数比較



加入世帯数150世帯以下の小規模な自治会が約半数を占め、15世帯ほどまでのまとまりで班を構成。

=住宅開発とともに自治会が設立されてきた。

同じような状況の人々による集合体として存在

(グラフのデータは平成26年4月現在)

【自治会長の状況】

過去5年の平均在任年数

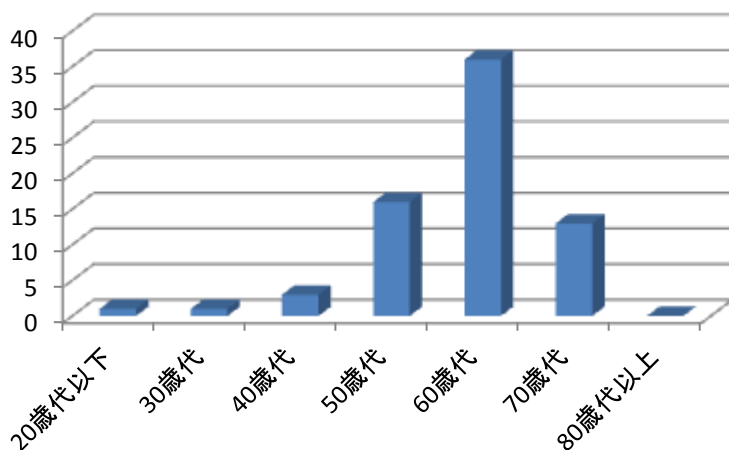
毎年自治会長が交代している自治会

1. 2年

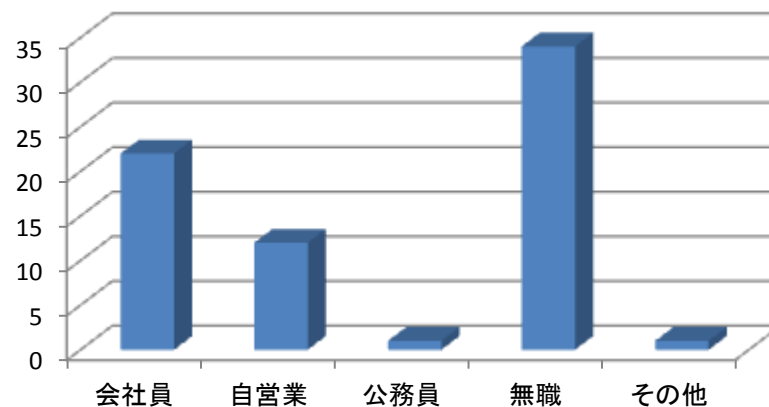
45自治会

(平成25年度調べ)

自治会長の年齢



自治会長の職業



(平成25年度 鶴ヶ島市コミュニティ協議会アンケートより)

現役世代が自治会役員を担うことが多かったため、少ない年数で役割を交代し負担を分かち合うことが主眼に置かれた自治会運営がスタンダードとなった。(顔役的な役割の不在)

【高齡化の推移】

	2000年 (12年)	2005年 (17年)	2010年 (22年)	2013年 (25年)	2015年 (27年)	2020年 (32年)	2025年 (37年)
人口(人)	67,638	69,783	71,127	70,198	71,664	71,511	70,565
高齡者 人口(人)	6,319	8,823	12,810	14,831	17,327	19,736	20,342
高齡化率 (%)	9.34	12.64	18.01	21.13	24.18	27.60	28.83
(参考) 75歳以上 人口	2,365 (3.50%)	3,122 (4.47%)	4,262 (5.99%)	5,040 (7.18%)	6,079 (8.48%)	9,027 (12.62)	12,236 (17.34)
国高齡化 率(%)	17.34	20.09	23.02	24.66	26.82	29.11	30.31

※2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計より

2025年までの75歳以上人口の伸び率で鶴ヶ島市は全国3位（391.9pt増）

【小学校区ごとの状況】

小学校区ごとの人口等比較表

	人口	世帯数	65歳以上	75歳以上	高齢化率	平均年齢	年少人口
鶴ヶ島市全体	70130人	29263世帯	15857人	5404人	22.6%	43歳	9329人
第一小学校区	8803人	3470世帯	2306人	814人	26.2%	45歳	1108人
第二小学校区	7143人	3264世帯	1901人	712人	26.6%	45歳	766人
新町小学校区	8578人	3267世帯	1737人	579人	20.2%	40歳	1649人
杉下小学校区	10104人	4383世帯	2079人	807人	20.6%	42歳	1403人
長久保小学校区	8905人	3892世帯	2014人	628人	22.6%	43歳	1067人
栄小学校区	8954人	3920世帯	2056人	625人	23.0%	44歳	1038人
藤小学校区	8512人	3470世帯	1701人	501人	20.0%	43歳	1149人
南小学校区	9131人	3597世帯	2063人	738人	22.6%	44歳	1149人

鶴ヶ島市市民課提供 平成26年4月1日現在

【自治会ごとの高齢化】

高齢化率が30%を超える自治会	10自治会
もっとも高齢化率の高い自治会	50%

平成25年1月調べ



- ・自治会内で担い手を確保できない。
- ・高齢者が役割を担えず、自治会を脱退。

【世帯数の増加】

過去10年間の世帯数と人口の推移

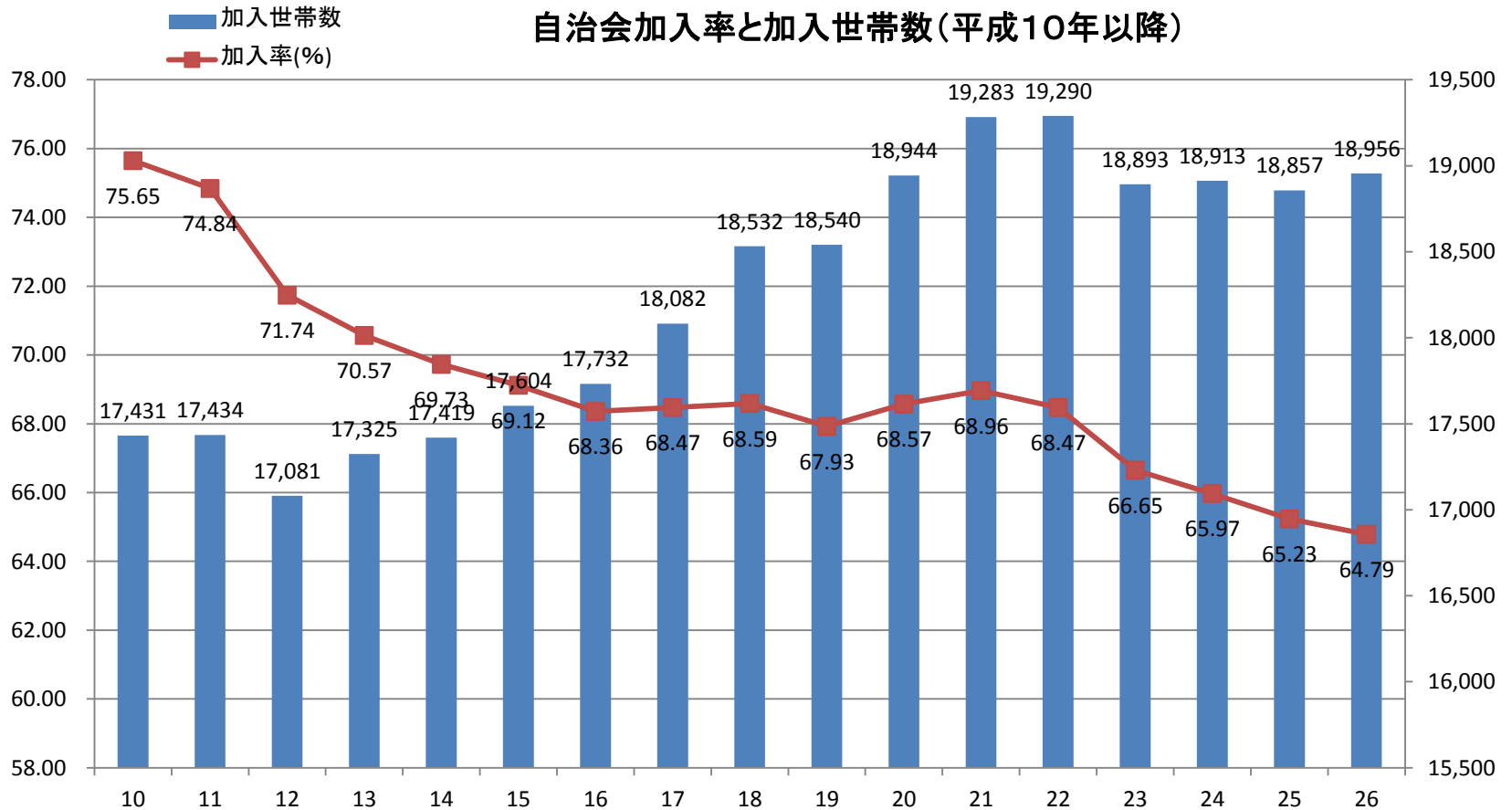
	世帯数	人口
平成16年	25,940世帯	68,603人
平成26年	29,259世帯	70,142人
増減	+3,319世帯	+1,539人

各年4月1日現在

＝世帯数が人口を上回って増加。

高齢化の進行とともに、世帯の小規模化が進んでいる。

【自治会加入率と加入世帯の推移】



【自治会館の状況】

○土地も建物も市の所有	9	(9 自治会)
○土地が市の所有	22	(43 自治会)
○土地が個人又は法人の所有	7	(11 自治会)
○公団集合住宅の集会所	2	(2 自治会)
○マンションの集会所	8	(8 自治会)
○県営住宅の集会所	4	(4 自治会)
合計	52	(77 自治会) ※全 84 自治会中

☆地縁による団体の認可実績なし。

【地域の課題】

- 急速な高齢化への対応
- 自治会の加入率低下
- 地域の関係性の希薄化
- 公共サービスの領域の広がり
- 潜在的な地域の担い手の受け皿づくり

【行政の動き】

○第5次鶴ヶ島市総合計画（前期基本計画）

期間：平成23年～平成27年

○リーディングプロジェクト 「共に支えあう仕組みづくり」

【4つの柱】

- ・ 推進体制の構築、地域づくりの拠点と人員の配置
- ・ 地域福祉の充実に向けた取り組みの促進
- ・ 地域の課題を地域で解決し、地域自治を進める仕組みづくり
- ・ 地域づくりの担い手の育成

○地域自治・地域支え合い推進担当の新設（～平成26年3月）

【地域の動き、行政等との協働】

鶴ヶ島第二小学校避難所運営委員会からの提起

⇒行政と協働で防災活動に取り組みたい

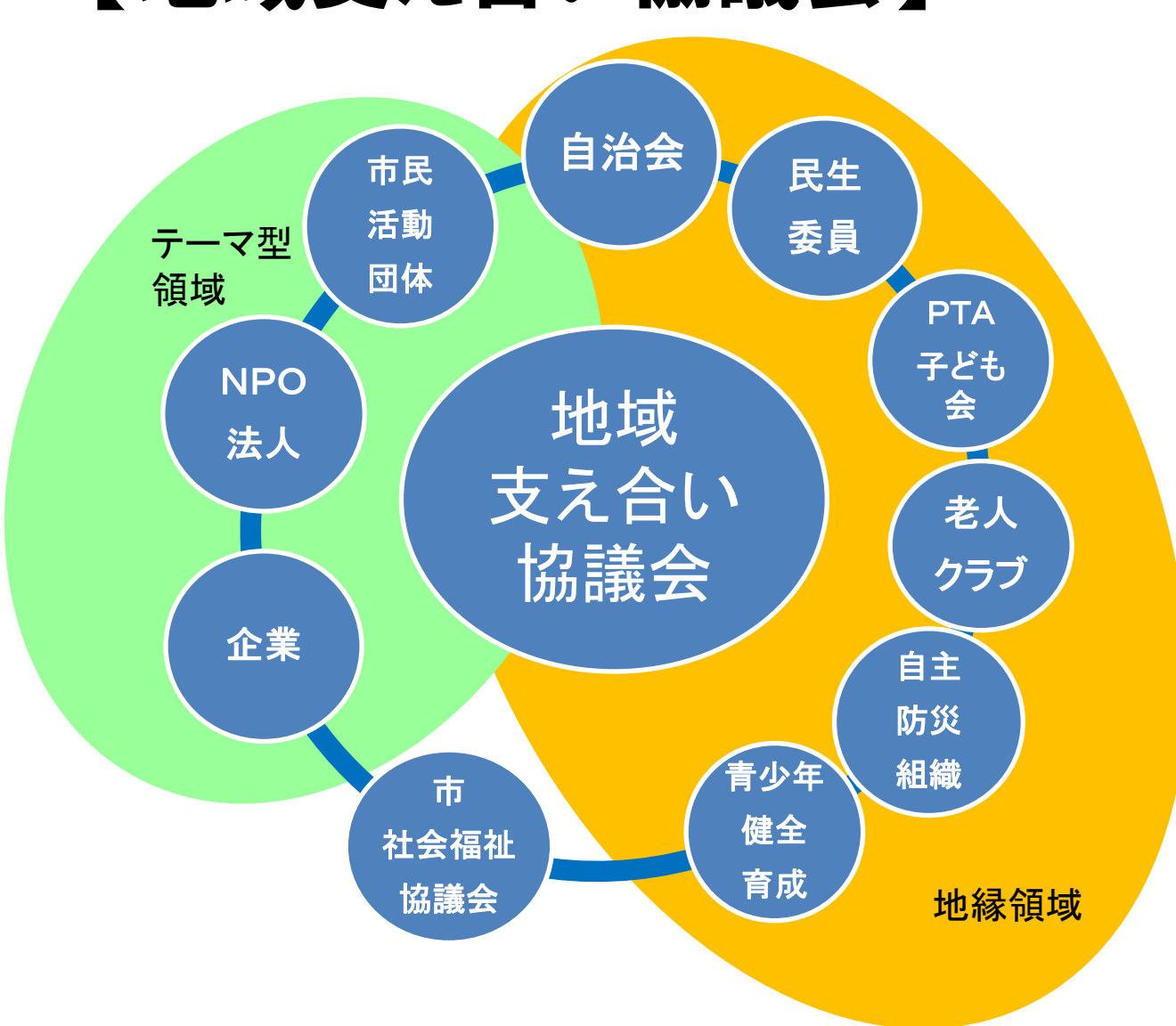
◎社会福祉協議会による小地域活動アンケート

◎平成23年度埼玉県市町村・NPO等協働モデル推進事業
(新しい公共支援事業)



地域の多様な主体が連携し、継続的に地域の課題に対応していく
組織のモデルづくりへ

【地域支え合い協議会】



継続的な
地域の
担い手づくり

スタイルの違う
活動同士の
相互理解

情報と人の
交流で
課題に対応した
事業の実現

【地域ごとに特色】

鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会

避難所運営のための組織がスタートとなり発足。

多様な事業を展開。

昨年法人化。

(平成23年設立)



富士見地区地域支え合い協議会

地域福祉団体の活動がきっかけとなり設立。助け合い隊や食育活動などを積極的に行う。

(平成24年設立)



サザン地域支え合い協議会

地域の運動会をきっかけに設立。農村地域と住宅地の融合、自治会や公民館との関わりが強い。

(平成25年設立)



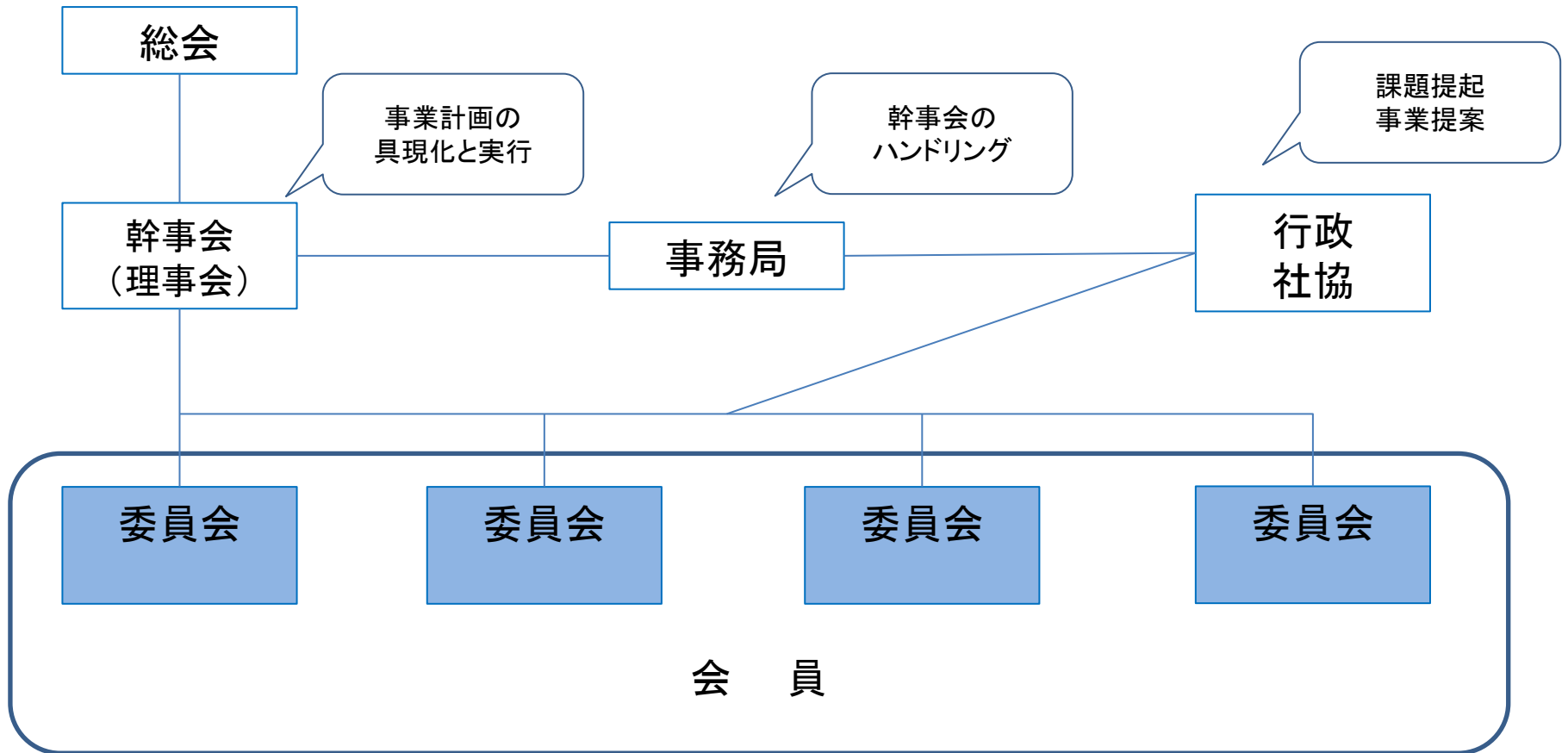
杉下地域支え合い協議会

地域の民生委員やサロン活動を行う活動者が中心となって設立。

(平成26年設立)



【標準的な組織形態】



【行政による支援と位置づけ】

鶴ヶ島市地域支え合い協議会等補助金（平成24年度～）

【地域支え合い協議会の定義】

地域住民が日常の暮らしの中で共に支え合い、助け合いながら地域の課題を地域で解決できる仕組みづくりを行うため、小学校の通学区域を基本とする地域においてNPO法人等の市民活動団体、企業等との連携により組織した団体及びその設立準備を行う組織

鶴ヶ島市地域支え合い協議会等補助金交付要綱 第1条より抜粋

【補助額（平成26年度）】

運営費補助（一般補助） 1,300,000円

設立補助（指定補助） 1,000,000円

※設立補助金は設立初年度に1度限り交付する。

このほか、市社会福祉協議会が「小地域活動組織化推進事業費助成金」として15万円を補助している。

【助け合い隊】



庭木の剪定



外出の補助

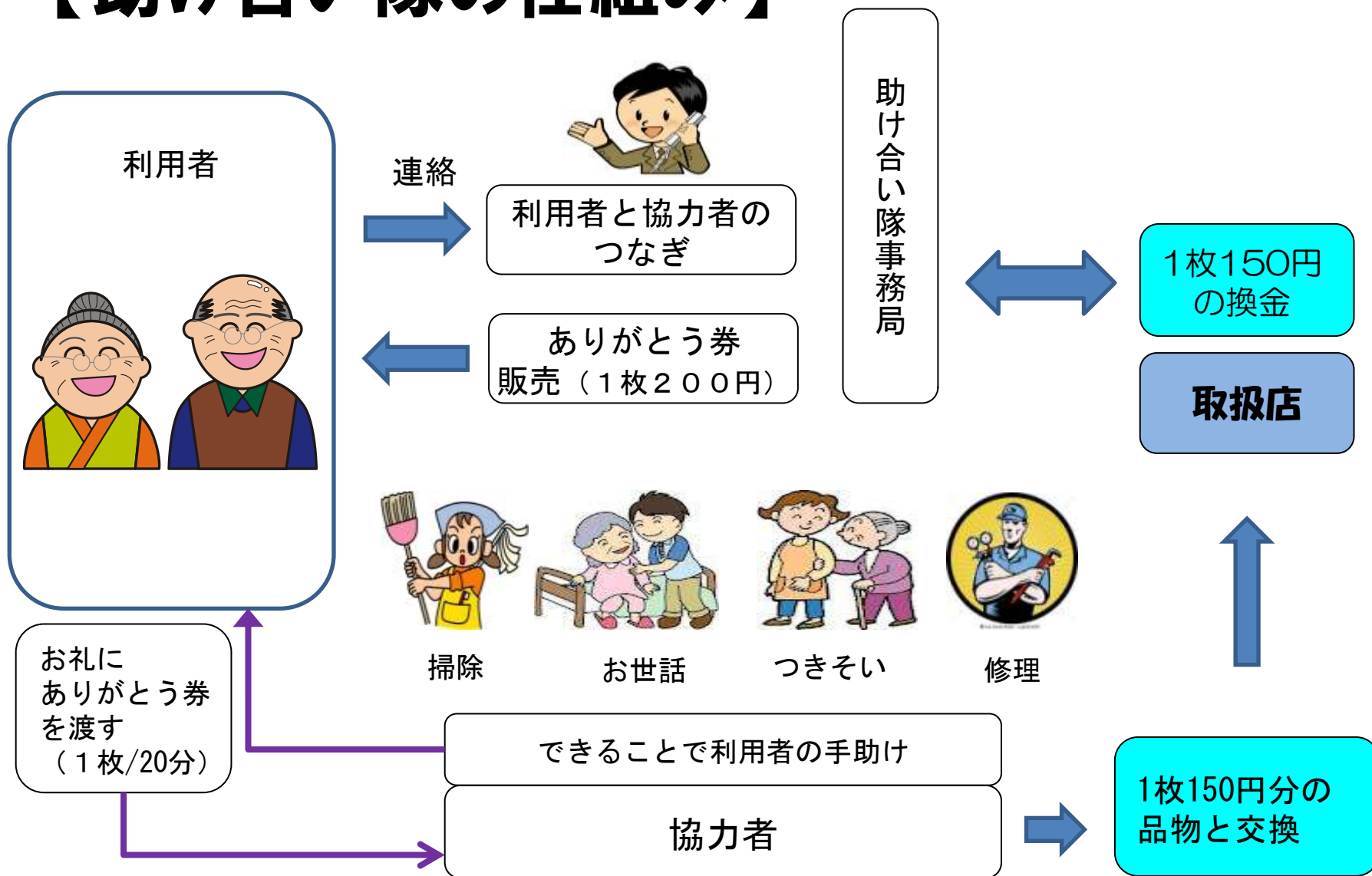
助けてもらったときのお礼を【ありがとう券】という形に定型化。

利用者は気軽にお問い合わせを頼み、協力者は自分らしく利用者のお手伝いをする事が出来る。

その道のプロが行う業務とは違う、地域の支え合いの関係をつくっていく仕組みとともに、地域のニーズ把握に効果的な事業。

地域支え合い協議会における基本事業として実施している。

【助け合い隊の仕組み】



【助け合い隊からの派生事業】

鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会
助け合い隊 特別企画

あの店・こんな店
行ってみたいなあ～

買い物ツアー特別バス運行!

☆バス運行日 **3月27日(水)・3月28日(木)** = 予約制
(1日2コース: 滞在時間2時間)

	Aコース 【カインズ鶴ヶ島店】	Bコース 【ベイシア鶴ヶ島店】
停留所	飯能信用金庫前 10:00	飯能信用金庫 11:00
<行き>	鶴ヶ島文化会館前 10:05	鶴ヶ島文化会館前 11:05
	南公民館前 10:10	南公民館前 11:10
	藤の台団地入口 10:20	藤の台団地入口 11:20
<帰り>	カインズ出発 12:30	ベイシア出発 13:30

※バスの停留所は、ご希望により調整します。

☆料金 無 料 (今回は特別企画のため)

☆利用対象 *外出しにくい高齢者の方
*買い物に不便を感じている方など

☆予約申込 3月15日(金)までに、担当民生委員
または助け合い隊事務局へ電話で申し込みください。
鶴二助け合い隊事務局 (鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会内)
TEL 049-298-7974 (10時～16時 土・日・祝日除く)

今回のバスツアーに同行いただける方など
「助け合い隊 協力者」を募集しています。
お申込み・お問い合わせは事務局へお電話を



【買い物バスツアー】

自動車などの移動手段を持たない高齢者の、

「大型ホームセンターでゆっくり買い物がし

てみたい」という声から事業化。

冠婚葬祭事業者との連携により、バスの手配

を容易にし、地域の協力者が付き添い実施。

【事業者との連携】



【高齢者福祉介護セミナー】

講演会の開催とともに、協議会近隣の福祉施設の事業者と連携。

それぞれの事業者が（10事業者）がブースを設け、参加者の疑問や相談を直接受ける。

平成25年度に鶴ヶ島第二小学校区で開催。今年度も継続して開催予定。

【学校との連携】



【宿題サロン】

小学校保護者との懇談における「夕食の準備などで子どもの宿題にゆっくり関われない」という意見を基に事業化。教員経験者などの地域の住民が中心となって、放課後に子どもの宿題のサポートを行う。

【防災の取組】



教室の窓に自治会の名称を掲示。
災害時には自治会の集合場所となり、地域の安否確認などに活用される。
子どもたちの引渡し訓練を自治会との間で実施するなどの取組も行われる



要援護者の救出と受け入れ

【法人化に向けた動き】

鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会における
特定非営利活動法人（NPO法人）成立まで

平成24年		法人化に向けて協議会内のプロジェクトチームで検討
平成25年	4月	総会においてNPO法人化に向けた意思決定
平成25年	8月	NPO法人設立総会開催
平成25年	12月	NPO法人として成立
平成26年	3月	法人としての最初の事業として、 養命酒製造（株）より 環境学習施設「eコラボつるがしま」の運営受託
平成26年	4月	任意団体としての活動を終了し、NPO法人へ移行完了

【法人化の理由】

- ・ 法人として責任ある事業活動を行う。
- ・ 法の下で徹底した情報公開による事業活動を行う。
- ・ 事業委託による事業活動の充実
⇒地域における認知をすすめる。

ONPO法人とした理由

- ・ 関係者の経験値
- ・ 補助金メニュー
- ・ 税制面のメリット



環境学習施設
「eコラボつるがしま」

【今後の展開】

○役割の公平分担型から担い手づくり型の地域運営へ

- ・ 地域支え合い協議会の全市展開

⇒地域課題の把握と事業展開と人材づくり

⇒地域の中でのイメージづくり

- ・ コミュニティビジネス型事業のノウハウ作り

⇒思いを事業化し、事業を継続させるシステムづくり

- ・ 補助金の整理

⇒行政として求める事業の明確化

【地域の意思決定の仕組みづくりへ】

○地域支え合い協議会

⇒地域の課題に地域で対応していく組織



地域のための事業を繰り返していくことで、
地域の重要な担い手として認知される。



地域の意思決定の取りまとめ役へ

<関連事項>

- ・地域まちづくりセンターと地域自治組織
- ・地域コーディネーターの立場と役割
- ・地域社協の構築

2014年8月6日

第2回 都市自治体とコミュニティの協働による
地域運営に関する研究会

- 無断転載、複製および転訳載を禁止します。
- 引用の際は本書（稿）が出典であることを必ず明記してください。
- This paper is copyrighted and may not be copied or duplicated in any manner including printed or electronic media, regardless of whether for a fee or gratis without the prior written permission of the authors and Japan Center for Cities. Any quotation from this paper requires indication of the source.



公益財団法人

日本都市センター

